

貨物合理化を粉碎しよう



83.2.17
No. 1268

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

『国鉄25万人体制』にむけた新たな攻撃激化

第二臨調、「緊急措置11項目」をはじめとする国鉄合理化攻撃はますます勢いでかけられてきている。

国鉄当局は「57・11」「検修下回り」につづき一月末、「新しい鉄道貨物営業について」拠点間直行輸送体制への転換」を提示してきた。

六〇年度予定を繰り上げ「57・11ダイ改」で八〇〇駅・一〇〇ヤード体制に削減・縮小したにもかかわらず、その直後に臨調Ⅱ行革攻撃の一環として国鉄再編合理化の一層の深度化として貨物部門の一変、更には全廃を狙いとされた今回の計画は国鉄の「輸送使命」そのものを否定するものであり、決して容認できるものではない。

貨物全廃＝要員削減の新たな提案

当局の主な提案内容

I 国鉄貨物の現状と改善の方向

1. 貨物営業の現状
 - ① 現行の貨物輸送大系は、途中ヤードで列車の入換えのない直行系
 - ② 入換えの伴うヤード系に大別されるが今後すべて直行系（拠点間直行輸送）とする。
2. 輸送形態別収支試算

現行の貨物部門の収支は収入三二〇〇億円・固有経費四九〇〇億円であり、七〇〇億円の赤字である。ヤード系の貨物を廃止することにより収支を均衡したい。
3. 貨物経営改善の方向
 - ・ 輸送システムの転換……直行輸送体系の確立、拠点駅体制の実現（八〇〇駅→四五〇駅体制）、ダイヤ改正の実施（58年度、59年度）
 - ・ 営業制度の改善
 - ・ 業務運営の効率化……勤務体制・作業体制の見直し・機関区・貨車区の再編成
 - ・ 健全経営の回復

II 輸送システムの転換と新しい貨物駅配置

1. 輸送システム
 - ・ 新しい貨物駅配置
 - ・ 拠点駅……貨物営業の基盤としての駅
 - ・ 拠点間直行列車の発着駅・自動車輸送の結節点Ⅱ約90駅
 - ・ その他の貨物駅＝拠点駅の補完Ⅱ約三六〇駅

III 今後の貨物営業制度

1. 運賃制度……略
2. 販売体制と通運体制……略

IV 業務運営の改善

駅要員をはじめ乗務員・検修要員などの勤務や作業のあり方を抜本的に見直すとともに機関区・貨車区の保守基地を再編成し、一人あたりの輸送量を現在の二倍程度に引き上げる。

◎ 貨物駅配置計画

千葉局……越中島・小名木川、新小岩操・西船橋・銚子・新茂原・蘇我・君津・千葉貨物（タ）、（□は拠点駅）

佐倉・八日市場・大原・成田・佐原は廃止

当局の狙いは「60年収支均衡」といつつも実質は貨物部門の縮小↓切り捨てであり、第二臨調自民党による国鉄「35万人体制」↓「20万人台体制」計画への要員削減の帳じり合わせである。

我々は今回の施策に対し次の主張を行った。

- ① 貨物部門の収支均衡を理由に独占資本専用の貨物列車のみを残し、少量・少数の貨物を切り捨てることは、国鉄の果たしてきた役割・使命を考えるならば認められるものではなく当然残すべきものである。
- ② 貨物列車の削減により工臨・団臨の列車設定が困難になり線路保守などに大きな影響がでる。

動労「本部」革マルの裏切りを許さず闘おう

今回の提示された内容は「赤字」解消に対し何ら展望もないばかりか、要員削減だけを目的とする当局の国鉄労働運動解体攻撃Ⅱ「産報化」攻撃である。

「働こう運動」以降、自民党・当局の尖兵として合理化に率先協力する動労「本部」革マルを許さず、今春以降予想される「内達改悪」反対に向け全職場・全組合員が「貨物合理化」「内達改悪」粉碎に向け総決起しよう。